

算命学中庸

【初年】 65 回目

65 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】 (3)

・【初年】 65 回目【天中殺の心得 (3)】 01

- ① 「親と子の天中殺」
- ② 「兄弟の天中殺」
- ③ 「天中殺で人を雇う・人に雇われる」

のちほど説明します。

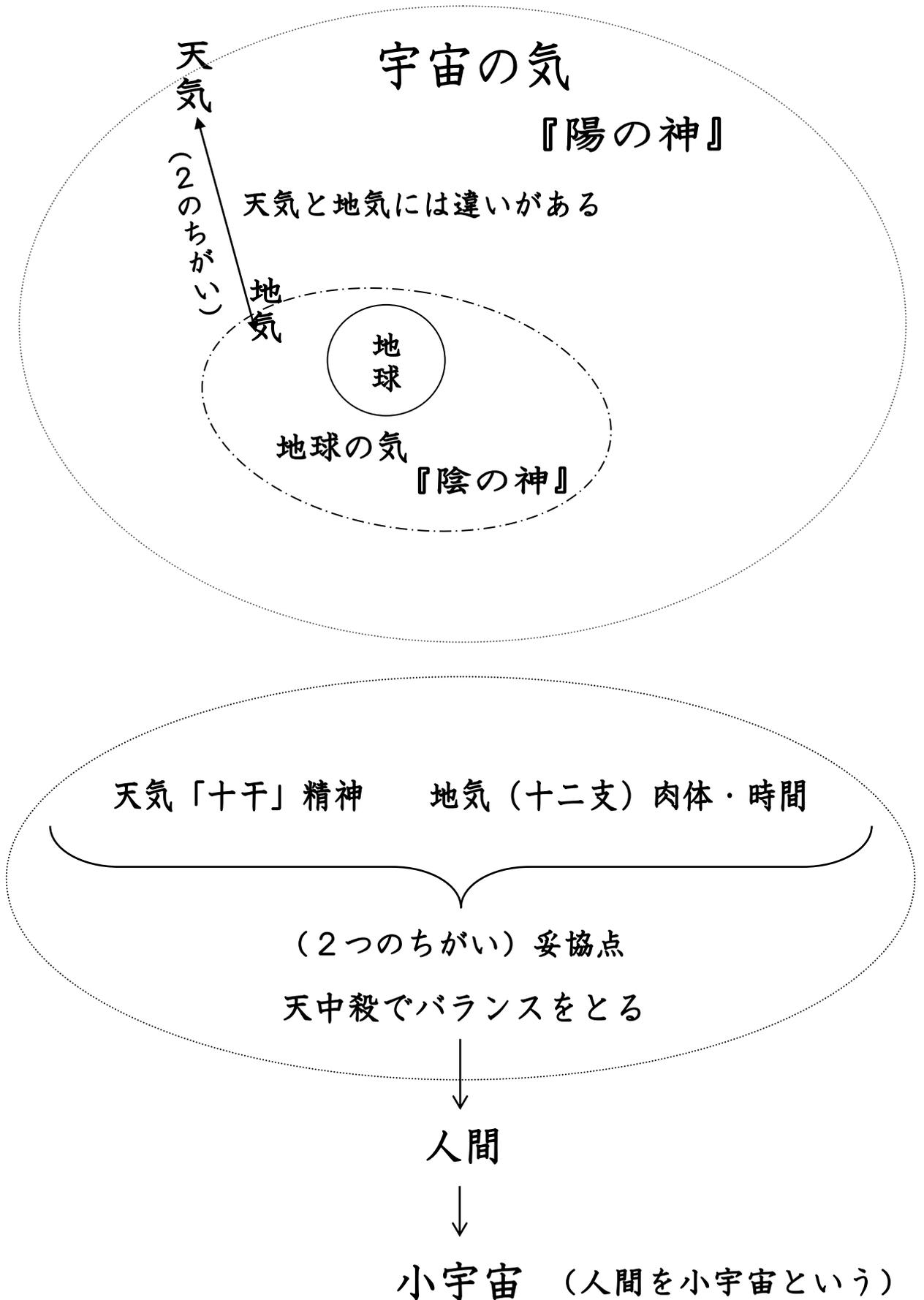
☞ 精神は宇宙でできているとしています。

天気 ⇒ 精神
地気 ⇒ 肉体

＞ 人気

「天を精神」(地を肉体) このような捉え方をしています。

宿命（1） 天気・地気



人間はバランス（つりあい）がとれていれば宿命道理^{どうり}に
生きられます。長生き^{ながい}できます。

天気は十干であらわされて、地気は十二支であらわ
されます。それは干支^{かんし}の姿です。

「十干」と（十二支）の違いの妥協点が天中殺です。

大宇宙があり、私たち人間は地球という惑星^{わくせい}で生活
しています。

人間は小宇宙であり、人間の肉体は地球に存在する
物質で構成されていますが、精神は宇宙からもって
きたと考えています。

それゆえ、天気は精神、地気の部分が肉体に相当し
ます。

天気と地気を宿命であらわしたものが、人間の身体
に入って「人気^{じんき}」となる。という在り方^{あ かた}です。

参考：在り方〔どのような姿・状態で存在するかということ。〕

天気と地気をあらわす干支は、一人一人違いますが、
天気と地気を自分もっているということは、天気
と地気の違い、そこには **2** という数字が含まれる
わけですから、誰もが天中殺をもつことになります。

「十干」と（十二支）の **2** という違いが天中殺です。

天中殺はグループごとに生まれてきます。

天中殺そのものは、単独で独立して存在しているわけではないのです。

必ず集団ごとに存在しますから〔自分の天中殺が相手に対して〕〔相手の天中殺が自分に対して〕という風^{ふう}にグループのあいだで影響し合うわけです。

この事象も天中殺そのものに存在する宿命の1つですから、自分の天中殺が相手に、相手の天中殺が自分に影響し合うわけです。

参考：風〔そのような姿・状態であること。〕

参考：存在〔それぞれの性質や動きや価値をもっていること。〕

ご夫婦であれば、夫の天中殺が、あるいは、妻の天中殺が夫婦のあいだに影響を及ぼします。

当然、集団を家族とすれば、子供も入りますから、親の天中殺が子供に、子供の天中殺が親に影響を及ぼします。

このことは、天中殺が成立したときから、天中殺がもつ宿命です。

自分が自身^{じぶん}の天中殺に入っても、なんの禍^{わざわい}も起こさない場合があります。

ところが…自分が天中殺に入ったのに、病気ひとつ

しないで、「ああ無事に過ぎてよかった……」

「何事^{なにごと}も無く天中殺が過ぎ^す去^さった——」ということ
は有り得ないのです。

なぜかといえ、天中殺はどこかに、誰かに^{はきゅう}波及
します。

それは天中殺がグループで誕生するものだからで
す。

自分の天中殺の^{わざわい}禍ともいえる現象が、自分自身に
生じないで、まわりの人に^{はきゅう}波及してしまう。
まわりの人に自分の天中殺の影響を^{およ}及ぼす。
このようなくぎが起こります。

参考：過ぎ去る〔ある状態が消えてなくなる。〕

参考：波及〔余波が及ぶこと。だんだんと影響が及ぶこと〕

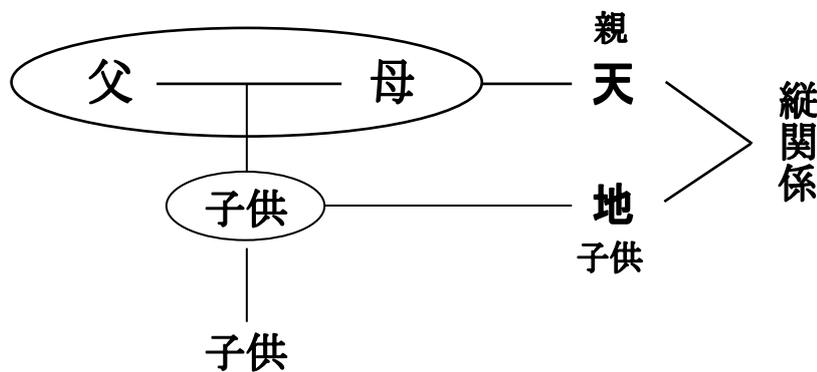
参考：及ぼす〔作用・影響などをある所に行き渡らせ。〕

参考：道理〔そうあるべき物事のすじみち。〕

①「親と子の天中殺」

親と子の関係は、親がいて、子供がいますから、
たて
縦の関係です。

宿命(3) 親と子供の天中殺



親を**天**に見立て、子供を**地**に見立てると上下の関係
です。

親の気は子供へ向って流れていきます。

『親の天中殺が子供に影響を与える』これは原則です。

お互いの影響の大きさでいえば、子供が小さいときは、
親の天中殺の影響を受ける割合どあは子供のほうが大きい
です。 参考：割合 [状態の強弱などをはかって表出される程度。]

子供がまだ一人前ではないとき、子供本人の天中殺
の影響よりも、親の天中殺の影響を受ける割合のほ
うがとて大きいのが原則です。(例外もあります)

子供が一人前ではないときは、自分の天中殺の禍わざわいを受けたとしても、その影響はとても小さいです。親の天中殺の影響を子供が受けてしまう程度のほうが大きいです。

〔たとえば〕親は現在いま自分の天中殺に入っています。子供が幼い段階では、親は子育てに一生懸命な状況ですから、親の天中殺が真正面ましようめんから子供に影響を与えることになります。子育てに一生懸命な姿というのは、親の気が子供に向いている。ということです。

そして、親が親自身の天中殺に入っているときに、子供が将来を思い描いて、自分の進路を決める年代の時期に、親が独断で子供の進路を決めてしまうと、子供の進路を間違えることになります。

つまり、自分の子供はどの方面に向いているのか？ということについてですが、親御さんのなかには『親の自分たちが一番理解している』との考え方をもっている人もおられます。

しかし、その認識が正しいとは決まっていません。失敗することもあります。

参考：認識〔物事の本質を理解し、その事柄をはっきり見分けること。〕

将来——子供が文系に行くのか、理系に行くのか、公立になるのか、私立になるのかというような問題のときに、親が自分自身の天中殺に入っていたら、子供の進路を決めるのをやめたほうがよいのです。第三者に意見（担任とか塾の先生とかの）を訊いて、対処したほうがよいです。

少数の例外はあるでしょうが、ほとんどの場合……自分の子供のことは〔親が1番よく理解している〕とおもっています。

そうかも知れませんが、子供の将来に関係する人生の分岐点のとき、親が自分の天中殺に入っているのなら、その天中殺の気を避けることです。

何としても避けることをお勧めします。

なぜかといえ、親自身が天中殺のときは、親自身の判断が不自然になります。ふつうの状態と変わりますから、判断に狂いが生じやすいので、間違いが起りやすいといえます。

「気の流れ」は水のように上から下へ流れます。親が上で、子供は下なので、親が子供に及ぼす影響はとて大きいと考えてください。

☞ つぎへ進みます。

ここからは……子供が成長してからの話です。

(a) 「親の天中殺で——運が下がる子供」

(b) 「親の天中殺で——運が上がる子供」

子供が成長して、子供が親とおなじ社会性を身につけたとき、つまり子供が世の中へ出て働くときです。その時期に“親離れする子”と“親離れしない子”とに分かれます。

昨今は、親離れしない子（親離れできない子）が多くなっています。

親離れできなければ、いつまでも親の影響下にいます。とうぜん親の運勢の影響を受けます。

親離れすれば…子供自身の運勢で動いていくことになります。親離れした子供は自分自身の天中殺が自分に影響するようになります。

〔親離れする子〕と〔親離れしない子〕は別の姿になります。

参考：成長〔心身ともに大人になること。〕

⇒ 大学を出て一流会社に勤めても、親と一緒に住んでいれば食べるのに困らないでしょう。

同居している子供が可愛くて、親が子供を手放さなければ、親は自分の天中殺の気を、子供の頭に湯水ゆみずのように浴あびせています。

この姿は親離れしない子供が置かれた姿です。

子供は親の天中殺に巻き込まれます。

親の天中殺の影響が大きければ大変です。

(a) 「親の天中殺で—— 運が下がる子供」です。

参考：浴あびせる [ものごとの（集中的）な作用を注ぎかける。]

⇒ 親に逆らう子供は早く独立します。

親に逆らうわけですから、親からみると〔素直でない・よい子ではない〕ともいえます。

子供は大人になれば親離れをします。

親離れするのは当然のことであって、親元を離れて行く子供は、失敗しても自ら立ち上がる強さを身につけます。

親から離れることで、親の天中殺の影響を受けなくなります。自分自身の天中殺の影響を受けようになります。それは自立した姿です。

子供が社会へ出て活躍するようになって、親と子の縁^{えにし}はおなじです。

社会的立場では、親子の〔縦関係〕が〔横関係〕に変わります。

親と子という縦関係から、子供が一人前になれば横関係になりますが、縦と横が重なり合った関係がそこに生^{しょう}じてきます。

(b) 「親の天中殺で——運が上がる子供」というのは……

子供が自分の天中殺現象を親に与えて、子供本人が発展します。

子供が成長して、子供の運勢が伸びる状態のことを考えると、親は年齢的に 60、70、80 歳になっています。

年令差を単純に〔30 歳〕と仮定しますと、子供が 30 歳になると親は 60 歳です。

子供が 40 歳になると、親は 70 歳になります。

参考：発展〔物事の勢いや能力がゆたかになる。〕

参考：伸びる〔勢力や能力の程度が増した状態になる。〕

参考：因縁〔宿命による、動かせない環境や関係。〕

子供の天中殺を“親が被^{かぶ}る”状態を思いめぐらすと、場合によっては〔親が命を失う〕ということにもなります。親と子はつながっていますから、切り離すことはできません。

夫婦はもともと他人ですから、別れてしまえば他人の状態に戻ります。切り離すことができます。

参考：被る〔受けるいわれのない負担などを身に受ける。〕

親と子は因縁が深いために、本来は子供が被^{かぶ}るべき天中殺の禍^{わざわい}を、子供が親に浴^あびせる状態があっても当然といえます。

子供が受けるべき禍を、親に負わせることは可能です。

〔たとえば〕子供が仕事で重大な岐路^{きろ}に立ったとき、子供自身が天中殺に入っていれば、子供は天中殺を乗り越えるために……親に自分の天中殺を与えて子供は逃げ延びて行くということも起り得ます。子供の天中殺現象をもらった親は大変です。

☞ 子供の天中殺で親が他界した場合、その子供の禍を親がああ世へもっていってくれるという考え方に基づいています。

（それが良いとか悪いとか論じていません。）

子供の天中殺で親が命を落とすことは多いです。
それは親の役目でもあると考えています。

子供が何人かいて、その子供のなかの誰かの天中殺で親が死ぬというのは、親にとってはその子が一番気がかりであったという証拠でもあるのです。

1番気にかかる子供の天中殺の影響で親が死ぬということは起ります。

親が子供たちを「平等に愛している」といっても、それは有り得ないと考えています。

おなじ両親から生まれたのに、子供が3人いれば、個々に性格も容姿も異なります。

そのなかの1人は自分にとって、1番嫌いやな子供なのですが……気になって仕方がないということもあるわけです。

親が自分の宿命道理に生きていれば、子供の天中殺の影響を受けにくいといえます。

このことは親に限ったことではなくて、子供の場合もおなじです。

✽ 市川 團十郎 1946 (s21)-8-6 [2013-2-3] 66 歳没

	壬	乙	丙		禄存星	天南星	1 丙申
寅	子	未	戌	石門星	牽牛星	車騎星	11 丁酉
卯		丁	辛	天将星	調舒星	天印星	21 戊戌
		乙	丁				31 己亥
	癸	己	戊				41 庚子
							51 辛丑
							61 壬寅

✽ 市川 海老蔵 1977 (s52)-12-6

	丁	辛	丁		貫索星	天将星	10 庚戌
辰	酉	亥	巳	禄存星	牽牛星	石門星	20 己酉
巳		甲	戊	天貴星	禄存星	天報星	30 戊申
			庚				40 丁未
	辛	壬	丙				50 丙午
			生年中殺				60 乙巳
							70 甲辰

市川海老蔵の父・市川團十郎は 2004「甲申」に白血病を
発症しています。このことは宿命に「生年中殺」をもつ
海老蔵にとっては有り難いのです。（勉強ですよ）

2008「戊子」市川團十郎は妹から骨髄移植を受けます。
その後は比較的安定していたようです。

2013「己巳」-2-3〔66 歳没〕

2013 年は海老蔵の天中殺・辰巳天中殺の^{とし}年です。

海老蔵は 2010(h22)-11-25「西麻布事件」を起こしていま
す。〔海老蔵は事件当時 23 歳〕

海老蔵は父親とおなじように多くの女性関係がありまし
たが、西麻布で飲み歩いて喧嘩になり、鼻の骨が陥没し
た事件です。

タクシー代金を支払わず問題にもなりました。

海老蔵は飲むと「人間国宝になる」とわめいたそうです。

飲んで絡む^{から}ということがあって事件は起きました。

ここでは海老蔵の宿命に関して、詳しく触れませんが、
父親が息子の天中殺で死んだということは、市川團十郎
が海老蔵のことが気がかりであったといえます。

算命学では、父親が自分の死とともに、海老蔵に降りか
かる禍をあの世へもって行ってくれたと解釈します。

☞ 子供を犠牲にして、成功する親がいます。

ふつう以上に大成功している人は、ほとんどが子供を犠牲にしています。

それがよいとか・わるいとかを論じていません。

ノーベル賞を受賞した人でも、子供が犠牲になっている場合が多いです。

〔たとえば〕人間が一生かかっている貯蓄額を2億円と仮定すれば、それには大変な労力を必要とするわけですが、それでも貯める人がいるわけですが。

それには何かしらを犠牲にしなければ、その金額をつくれないという考え方があります。

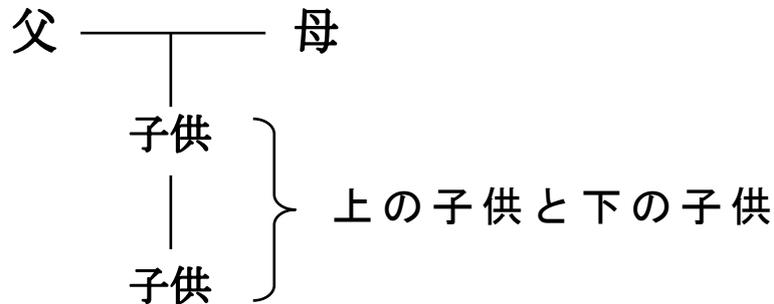
身内の誰かに犠牲者をつくることによって、自分の運が想像以上に上がる場合があります。

〔たとえば〕オリンピックで金メダルを取るということもそうですが、それには肉親が最大の犠牲者になります。

自分の運勢の量は決まっていますから、誰かの運勢を取らなければ、大成功に結びつかないのです。

“それは誰でもよい”というわけにはいきませんので、犠牲者はやはり身内になります。

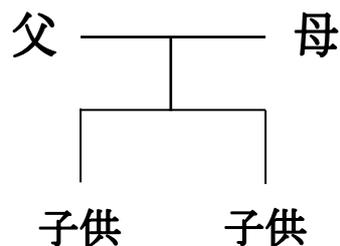
② 「兄弟の天中殺」



兄弟の場合は上の子と下の子になります。（縦線の関係）
ところが……兄弟はもう1つ別のものがあります。

（日本の法律は——兄弟は横関係です）

それゆえ、遺産相続は2人なら1/2です。



兄弟のあいだで、天中殺を受ける度合いは非常に少ないです。成人して社会にできれば、まず関係がなくなります。兄弟がそれぞれ結婚して家庭をもてば、なおさら関係はなくなります。

結婚をすれば自分の核（集団）ができますから、そこでは自分の天中殺の影響が大きくなります。

③〔天中殺で人を雇う〕〔天中殺で人に雇われる〕

天中殺のときに人を雇う、あるいは、天中殺のときに人に雇われる場合です。

このことに関しては親子であっても、原則として、他人として考えないと成り立たちません。

経営者（雇う側） ————— 雇われる側

雇う側は経営者です。

会社は経営者の運勢でうごいています。

〔たとえば〕うちの会社は社長よりも専務のほうが実力は上です。ということは関係ないので、実力は二の次です。

雇われる側の運勢がどうだとか、こうだとかよりも、会社の運営は社長の運気で動きます。

社長が自分の天中殺に入ってから、会社の業績が悪くなれば、社員の天中殺がどうだとか、こうだとかに関わらず悪くなります。

- ① 雇う側の人为天中殺で、雇われる側の人为天中殺ではない場合。
- ② 雇う側の人为天中殺ではなくて、雇われる側の人为天中殺の場合。
- ③ 両方とも天中殺の場合。

① 雇う側の人为天中殺の場合は、雇われる人は、自分の運勢に関わらず影響を受けます。

② 雇われる側の人为天中殺の場合には、考え方が2つあります。

(1) 雇われる側の人、自分の天中殺で入社したら、その会社に対して迷惑をかける。

(2) 雇われる側の人、自分の天中殺で入社したら、その会社から自分が迷惑を受ける。

自分の天中殺で会社に入った場合は、入社した会社に長く勤めることはできないのが原則です。

自分の天中殺で会社に入って、長く勤めていたら、自分が会社の犠牲になっている。あるいは、自分が会社に迷惑をかけているかのどちらかです。

自分の天中殺で入社して、自分が犠牲になるという意味は――。

- ・ 病気で会社を休む。
- ・ 自分自身の人生（生活）を犠牲にする。

〔結婚ができない〕

〔結婚してうまくいかない〕〔でも会社を辞めない〕

〔結婚しても離婚する〕〔結婚しない〕

◎ 雇う側の人も、雇われる側の人も天中殺の場合。両方とも天中殺の場合は、お互いに押しつけ合うことになります。

共倒れになることもあります。

つまり、雇う側の中心人物が天中殺で、運が下降すれば、会社自体が駄目になってしまうことも考えられます。

そして、雇われた人も、自分の天中殺で入社したとなると、下降してゆく会社の足を引っ張るということが起こります。

✽ 田中 角栄 1918 (t7)-5-4 [1993-12-16] 75 歳没

	辛	丙	戊		玉堂星	天胡星	1 丁巳
寅	亥	辰	午	調舒星	玉堂星	車騎星	11 戊午
卯	甲	乙		天恍星	牽牛星	天庫星	21 己未
		癸	己				31 庚申
	壬	戊	丁				41 辛酉
							51 壬戌
							61 癸亥
							71 甲子

✽ 田中 真紀子 1944 (s19)-1-14

	丁	乙	癸		車騎星	天南星	8 庚戌
申	丑	丑	未	車騎星	車騎星	貫索星	18 己酉
酉	癸	癸	丁	天庫星	龍高星	天庫星	28 戊申
	辛	辛	乙				38 丁未
	己	己	己				48 丙午
							58 乙巳
							68 甲辰
							78 癸酉

田中真紀子の初当選 1993（H5）「癸酉」7月

田中角栄他界 1993（H5）「癸酉」12月

つまり娘の天中殺で田中角栄は死にました。

田中角栄前総理は田中真紀子が初当選したとき、新潟入りして、娘の当選を悦^{よろこ}んだが、その5ヶ月後、真紀子さんの天中殺で死亡しました。

真紀子さんは天中殺で衆議院議員になっていますから、彼女が大きく飛躍することは難しいです。

にんき
人気と運勢は別です。

親は一番気になる子供の天中殺で死ぬということが起こります。（娘の天中殺で田中角栄は死んだ）

角栄氏は真紀子さんのことが気がかりで死んだと考えます。角栄氏は娘を当選させて死にました。

娘の犠牲になったと考えます。

真紀子さんの立場で考えますと、父・角栄氏に自分の天中殺を浴^あびせて、真紀子さんは当選を果たしたわけです。（天中殺の集中的な作用を父は受けたわけです。）

【初年】 65回目【天中殺の心得（3）】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 66回目【天中殺の心得（4）】です。